

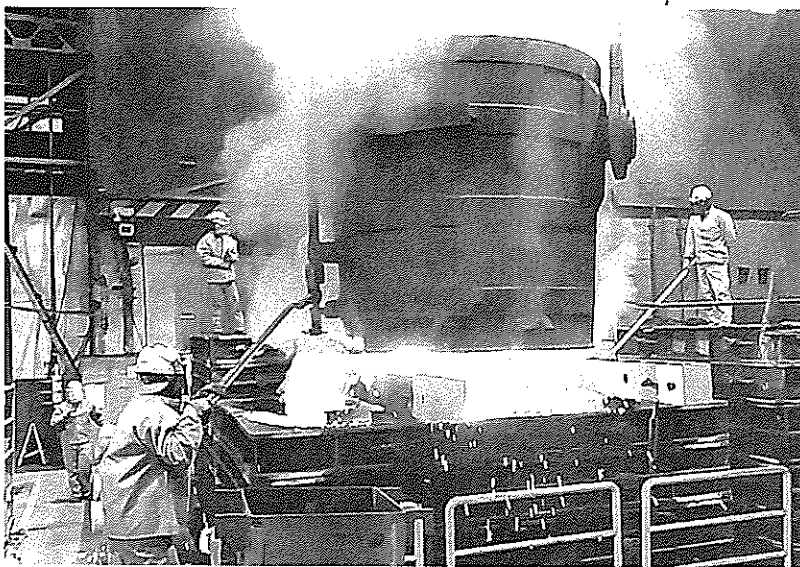
清本鉄工(延岡)競争力強化

鑄鋼部門 日本鑄造(川崎市)と業務提携

強み相互活用 コスト減

供給過剰や資材高騰で鑄鋼メーカーの経営環境が厳しい中、清本鉄工(延岡市)はJFEスチールグループの日本鑄造(川崎市)と鑄鋼部門で業務提携し、競争力強化に乗り出している。

基本合意書を2024年9月に締結して具体事項を、発やコストダウンの協力③、原材料や資材品の共同購買



日本鑄造と鑄鋼部門で業務提携した清本鉄工の鑄造作業(同社提供)

で、両社の強みを相互に活用する。

清本鉄工は1937(昭和12)年創業。インフラ設備や産業機械の設計製作据え付け、船舶関連や産業機械部品の鑄鋼製品の製造などを行っている。船のアンカー製造ではトップシェアを誇り県内唯一の橋梁メーカーでもある。

メンテナンス、プラント建設、鑄鋼の3事業本部にインフラ建設など3事業部を展開。従業員数は約600人(25年4月時点)、売上高は約207億円(24年度)。うち24年度の鑄鋼生産量(重量ベース)は9700トで、鑄鋼事業の売り上げは全社の2割を占める。内訳は船舶用が8割で産業、建設機械部品などの陸用は2割。

日本鑄造は1920(大正9)年創業。清本鉄工は同社製品のOEM(相手先ブランドによる生産)を受託するなど以前から関係があった。清本鉄工の主要顧客である造船業界は新船建造が活発で今後10年は受注が見込めるほか、業界再編や国による造船業復興の政策的後押しもあり環境は上向いている。一方で、鑄鋼業界は業者数が多く供給能力が需要を上回っているため価格交渉力は弱く、厳しい経営環境にある。

清本鉄工によると、現時点での株式の持ち合いや経営統合などは「白紙状態」という。取締役常務執行役員の佐々木明幸事業戦略室長は「原価低減や生産性の向上、技術開発などに関しては、各社単独ではおのずと限界がある。互いの強みを生かし競争力を高める一方、業界として適正な需給バランスを整える必要があり、今回の取り組みが同じ問題意識を持つ同業他社へ広がることや、将来の業界再編などのきっかけになれば」と話している。

(湯田光)